

令和8年度 澄川西小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：26016

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇6年生の「発言・表現意欲」の劇的改善（R6:45.7%→R7:82.5%）。R7年度は、全校平均を超えるまで上昇した。</p> <p>◇5.6年生の「人の役に立ちたい」意欲が100%。高学年としての自覚と貢献意欲が定着している。</p> <p>◇旧5年→新6年 計画的学習：75%→80% 学習習慣が向上</p>
	課題
	<p>◇読書意欲の減退 全校平均 R6 82.2%→R7 71.0%</p> <p>◇2年生の自己有用感の低下 R6 89.7%→R7 52.4% 「必要とされている」実感が低下してきている。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇本校で実践している縦割り活動（異学年交流）「あじさい活動」を活かして、体育発表会の全校競技を行なっている。また、「ふれあい活動」として、上級生が下級生に生活のきまりを伝えるなど、児童が活躍できる場を設定してきた。同学年との協働や異学年での協働を繰り返していくことで、相互承認の感度が高まってきている。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
問いを生む・問い続ける力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) AARサイクルの視点を重視</p> <p>特に、子どもの内発的な意欲を引き出すための「問い」を出発点として探究や課題設定、表現につなげていく教育活動を充実させることで、「主体的に学ぶ力」の育成を目指す。</p>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>①自分たちの生活を振り返る場の設定 →全校朝会での毎月リフレクション →4か月ごとのリフレクション・目標設定</p> <p>②教師の役割を、ティーチャーから「コーチャー（またはファシリテーター）」へ意識を変える</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>◇一人一台端末の活用により、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を図る。</p> <p>◇学びの質を高め、「学ぶ力」を育成することを目的にICTを教科等横断的な視点で活用していく。</p> <p>◇子どもが必要感をもってICTを効果的に活用する過程においては、情報活用能力の育成にもつなげていく。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

